

木もれびの森 (相模原中央緑地) 「かながわの美林50選」

「木もれびの森」は、単一の区画ではなく、相模原中央緑地とその周囲の樹林地から成る。相模原中央緑地は県有地だが、その周囲の樹林地は私有地で、相模原市が借り上げて整備、保全を行っている。総面積は約73ha。

みどりの道

この地「緑ヶ丘」に住む人々が失われゆくみどりを残そうと「子孫に誇れる明るい街づくり」を目標に平成元年から5年にかけて造成したもの。

道保川(ドリホ)公園 「かながわの公園50選」

道保川の水源地に整備された、近郊緑地保全地区内の風致公園。そのままの自然の中で、生きた環境学習、野外教育ができるよう整備され、初夏の頃にはホタルも見える。開園は昭和59年3月。現在公園は8.8ヘクタールのうち5.5ヘクタールを開放。この公園のせせらぎと野鳥の声が環境庁の「残したい日本の音100選」にも選ばれている。

相模原沈殿池 (かながわの探鳥地50選)

昭和29年に築造、総貯水容量 883千m³。この貯水量は、横浜市民が1日の使用量の約70%に当たる。相模湖で発電のため放流後、沼本ダムで取水され、この沈でん池へ送られる。約7時間滞流させ、水中の微粒物質の沈でん処理、水量の調整を行い、のち鶴ヶ峰、西谷の両浄水場へ送り出している。

相模原麻溝公園

相模原麻溝公園は隣接する県立相模原公園とともに市内の代表的な公園。5月頃から咲き始めるクレマチス(230種8,000株)と梅雨の季節の定番アジサイ(170種6,000株)が有名。

さがみの仲よし小道

昔、広い相模原台地は水がなく作物がとれず苦勞していた。昭和23年から16年を費やし19kmに及ぶ水路が作られ、通称「畑かん水路」と呼ばれた。その後水路の必要が無くなり昭和52年緑道として整備。相模原市内では総延長5kmのうち3.5kmが生まれ変わった。